

セミナー「首都圏直下地震に備えは万全か」講演要旨

〇はじめに

昨年、起きました東日本大震災及び福島原発事故に対しまして、全国の皆さまから多大なご支援をいただいております。高いところから恐縮ですけれども、福島県民の代表としまして、また南相馬市の市民を代表しまして、御礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございます。

本日は、震災と原発事故によって自分が経験したことが皆さんのお役に立てばということで、お話を用意させていただきました。

私が住んでいるのは、福島原発から 22 キロのところ。20 キロ以内が警戒区域ということで、立ち入り禁止にされていました。つまり、そこから出て行ってくださいという区域です。私のところは、ぎりぎり住んでもいいよ、という状態のところがありました。

けれども、やはり原発はどうなるかわからないという状態なので、家族 4 人、子どもは震災が起きた 3 月は、上の息子が高校 2 年生、下の娘が中学 2 年生ですから、4 月には大学の受験生と高校の受験生でした。そういう中、家族 4 人で 6 か月間ほど、新潟県上越市に避難させてもらい、いろいろと支援いただきました。学校の件、住むところの件、食べる件、収入の件。当然、自分 1 人でも、家族だけでも、どうにもならない問題が、山ほど毎日毎日、来ました。

でも、しっかりと、今ここに私は立っていられるという状況になりました。ですけれども、どういうことが起きたのかというのは、ぜひ皆さんに聞いていただければうれしいし、お役に立てばうれしいと思います。

本日は、震災と、それに伴って起きた原発事故で避難したときに、私と家族がどういうふうにして、実際にどういうふうに行動をして、その結果どうなったかというのを、なるべく具体的にお話しさせていただきます。

けれども、残念ですが、どういうふうにか考えたかというのは、人それぞれの価値観によって違います。ですから、あくまでも自分はこう考えましたということです。皆さんと一致するとは限りませんので、その辺は勘弁してください。

それから、こういう行動をしましたというのも、各家族でいろいろ制約があります。子どもが小さいとか、うちみたいにある程度大きいとかで、全然違います。ですから、それも、あくまでも、うちの場合はこうだったよ、こうしたよということに限定されてしまいます。その辺も勘弁してください。

それから、結果についても、残念ですけれども、ほとんどが自分の力じゃないです。周りの力、又はほとんどが運です。そういう意味で、全く同じことを、同じ立場でやっても、違う結果が出る可能性が全然、高いです。ですから、それだけ不確実だという前提に立って聞いていただければと思います。

私の話を聞いたときに、一つの事例として、こういうのがあった、でも、それを自分の中に生かすには、ここが抜けていたなとか、参考になったが、自分と違うので、こういう

考え方があったとか、そういう形で、自分の中になんとか取り込もうという努力をしていただければと思います。

○自己紹介

(1) サラリーマンからFPとして独立

私の話をする前に、私は、どういう人間なんだ、どういう家族なんだ、どういう職業なんだというのを、まず簡単に説明しないと、私のパターンが分かりませんので、その辺を簡単に説明させていただきます。

私はもともとは東京生まれです。今、東京スカイツリーが有名ですね。その足元の墨田区に生まれ、そこで育ちました。ところが、16年ほど前に、上の子どもが2歳のときに、子育ては自然の中でしたいということで、福島県南相馬市に引っ越し、お世話になっていました。

勤めは、東京のときはサラリーマンをしていたんですけども、その後、南相馬市に行って、6年ほど前に勤めていた工場が閉鎖になりました。その時点で、独立させてもらうことにしました。サラリーマン時代は、もともとは自分は技術屋で、コンピューターのプログラムを開発していました。

本日の会場の隣にある、東京ドームの屋根はこういうふうに膨らんでいますね。あれは、中の空気圧をちょっと外より上げて、つぶれないようにしているんです。それを自動で制御して膨らます機械があるんですが、その機械のソフトを作らせてもらいました。その関係で、独立したときにはIT関係のコンサルという形で企業さんのお手伝いをしていました。

それから、このまま自分が独立したときに、自分の生活はどうなるんだろう、ということを考えまして、じゃあ、自分の家庭にかかるお金のことも勉強しなきゃいけないと考えました。そのときに、ファイナンシャルプランナーという資格がありまして、それをやれば体系的に学べるだろうということで勉強を始めました。

そして、資格を取るうちに、これはとても大事な、ほかの人にも伝えなきゃいけない、という思いがいろいろと湧いてきまして、それも本業の中に入れさせてもらい、独立したときには、個人に対しては生活設計という形でご支援をさせてもらっていました。

(2) 緊急時避難準備区域とは

原発事故のときに、意外と分かっていただけないというか、私たちが置かれた立場というのは、ちょっと異常な状態でした。どういうことかということ、22キロ地点というところは、今はなくなってしまいましたが、緊急時避難準備区域に指定されました。どこが違うかということ、原発事故で緊急の事態が発生したときは、いつ原発が爆発するか分からないという状況でした。そうしたら、万が一爆発しそうだというようなことが起きたときには、急いで逃げてくれということなんです。

そうして、自力で逃げられない方は、悪いですけど、先に避難してくれ、という考え方なんです。歩いて逃げるとか、そんなの当然できませんから、前提としては車などで100

キロ以上移動しろという話です。そうすると、子どもは車の運転はできません。だから逃げられないです。自力で逃げられません。そうすると、そういう方は先に避難してくださいということです。

つまり、もっとはっきり言うと、子どもはここにはだめですよ、という感じです。ですから、小学校、中学校、高校は、すべてが緊急時避難区域では閉鎖になりました。それから、病院に入院されている患者さんも自力では逃げられません。ですから病院は、すべて入院してはだめ、入院の営業というのはいない、ということになりました。

一方、車等で自力で避難が可能な方は、そのまま滞在してもいいですよ、という形です。どっちなんだと言いたくなるんですけども、結局、これで何が起きたかという、子どもがいる、私の家族も含めてですけども、子どもを基準に考えると強制避難なんです。ところが、親の基準で考えると、いてもいいんだから、自主避難ですよ。そんな形になっちゃいました。

そして、実際に避難したわれわれに対する周りからの評価としては、自主避難で、好きで避難しているんでしょ、というような思いがあるわけです。ところが、子どもの安全とかを考えたら、しょうがなく逃げて来たんだ、ということなんですけれど、その辺がなかなか理解されていなかったというのがあります。

そうすると、私たちなどもそうですけれども、新潟に避難しているときに、戻るか戻らないかと、いつも葛藤なんです。戻ってもいいわけですから。戻れるんです。でも、原発で、まだ放射線が出ているんです。だから、子どもの将来の健康被害とか考えると、やはり戻りたくないな、というのがあります。ところが、避難先というのは何ですかって、うちの家族もそうですけれども、いきなり、さあ行くぞと連れて行って、学校も今までの友だちとも全部裂かれたわけです。

そうすると、子ども自体も、やはり精神的に参ります。親も一緒ですけども。特にうちの場合は、中学3年生の娘が、ちょうどいろいろあると思いますんで、やはりいろいろ悩んだと思うんです。そういう形で、今の子どもの精神的障害、一方で将来の健康の被害というところで、いつも葛藤していたというのが現実です。

さらに、この制度がちょっといやらしいことを起こしちゃったんです。どういうことかという、大人はいいわけですよ。そうすると、会社なんかは、そのまま営業しているんです。そうすると、家族で避難しても、お勤めの方は、会社がやっているとしたら、戻らなきゃいけないという方が、たくさんいらっしゃいました。実際に、自分が最終的に避難したときに斡旋してくれた住宅は、8世帯まとまって行ったんですけども、その8世帯のうち、自営業をしていたのは私だけです。ほかの7世帯はサラリーマン家庭でした。

そうすると何が起きたかという、私は自営業だから、もう覚悟を決めて、家族と一緒にいたんです。けれどほかの7世帯は、逆単身赴任というんですか、父親が1人残って勤めるために南相馬市に戻るといった状況でした。そして、避難されている方は、子どもとお母さんですね。そのまま暮らしている、子どもだけではなくて、お母さんの精神的苦勞も

大変だったと思います。そういう状況が起きました。

これが、緊急時避難準備区域という私が置かれていた立場です。

本日お話しする内容のダイジェストということで、まず、まとめさせてもらいました。

○震災生活——地震後の生活

お話しするのは、まず、大きく2部に分けさせてもらいました。

1つが震災生活。これは大地震によって、どうやって自分の身を守るか。その後に訪れたサバイバル生活。それをどうしたかという話です。それからその次に、追い打ちをかけたのが原発事故です。原発事故によって、さらに避難ということを余儀なくされ、それに対して、どう対応したかということをお話しさせていただきます。

(1) わが家の震災生活4日間の歩み

まず、震災生活では、震災後4日間は、南相馬市にいました。その間、何をしたかというのと、震災前にある程度準備をしていましたが、その準備が結果として、良かった点、悪かった点とかということも、お話しさせていただきます。

それから、震災のときに、ぜひ皆さんにお伝えしたいのは、津波から避難するとき、現実として、どういうことが起きたか。皆さんが、どういうことを心がけないといけないかというのを、質問形式で問題提起させてもらおうと思っています。

次に、原発事故で避難する。たぶん、長期戦になるかもしれないというのを、心のどこかに持ちながら、避難するということです。要は、サバイバル生活が、一時的なものじゃなく結構、長期間になるかもしれないということを踏まえた上で、どうするか、というので考えたところをお話しします。

実際に、避難生活が始まったときにどうしたか。6か月間どういう生活をしてきたか、着る物、食べる場所、寝るところはどうなったかということをお話しします。

それから、その次の医・職・充、これは俗語です。私が勝手に作らせてもらいました。医療つまり健康ですね。健康はどう維持したか、問題があったか。職つまり収入ですね。食べていくための収入にどういうことが起きたか。それから、充は充実ですけれども、私の場合は、子育て中だったので、子どもの教育、子育てということで、お話しさせていただきます。

実際に、避難生活を6か月間したときの、お金のやりくりはどうだったかというのは、私の場合の家計の採算ベースということでお話しします。

それらを踏まえて、私個人として、こうした方がいいという、考えている内容をまとめとして、お話しさせてもらおうと思っています。

まず、3月11日に地震が起きたときに、どういう備えをして、どういうことが起きたかということをお話しします。

地震が起きている最中、揺れている最中です。その間に何を考え、何をしたか。万一の備えとして、何をしたかです。

そして次に津波です。幸い私の家は海岸から5キロ近くあり、被害はありませんでした。それから、サバイバル生活というのは、その後の1週間ぐらい、たぶん、物とかが不足しますんで、それをどうやって生き延びるかということを考えていました。

今回の地震はすごかったです。私は東京の墨田区、下町育ちですから、関東大震災の話のいろいろ聞いています。そして地震の大きい揺れは1分ぐらい続くということを、小さい頃ずっと言われていました。

今回はその3倍です。3分間ぐらい揺れていました。ただ、3分ぐらい揺れていましたけれども、実際に、ばーっと揺れて、1分ぐらい我慢しなきゃいけないんだなと思ってしていると収まったんです。そしたら、またすぐ揺れ始めたんです。そしてまた1分ぐらい揺れているんです。そして収まったな、と思ったら、また来たんです。3回、明らかに来ました。

要は、大きい地震、普通だったら1分なのが、それがまとまって3回来た、というような感じです。地震が起きたとき、私は外を散歩していました。歩いていると、携帯電話が、バーバーバー鳴るわけですよ。地震が来るぞというのが。それを見ると、宮城県沖地震が発生と書いてあるんです。

もしかしたら大きいのが来るかもしれないというので、そのとき、私がどうしたかという、まず、上を見ました。電柱にトランスがあるのは、どこだと。そんなのが落ちてきて、頭に当たったら大変ですから、とにかく、電信柱とか、倒れてもなるだけ生き延びられるところというのはどこだ、ということを探しました。それから、脇にブロック塀がありましたので、ブロック塀から離れようと、おのずと道のほうに行きますね。車はあまり通っていないので、車道のほうに行って、電信柱がなるだけない、あったとしてもトランスがないところというのを、よたよたよた、というように歩いて行きました。そしてあとは、そこで座るのがやっとです。立ってられないというほどではないですが、思った方には移動できません。そういう状況でした。

家もかなり耐震設計で作らせてもらいました。ベタ基礎だとか、そういうのもやりました。ですから、被害というのはほとんどなかったです。今回は、一部損というのを受けましたけれども、大きい被害としては、何だったかといったら、外壁にちょっとヒビが入った、それから基礎のところの化粧のコンクリートにヒビが入った程度です。

あと、中身は大変ですね。土壁はちょっと崩れました。壁紙はもう、そこら中で破けています。それからタンス、本棚は、完全に倒れていまして、本が天井まで積んであったんですが、それが全部落ちていました。そして、その下に、自分の作業机があるんですけども、そこにいたら、どうなっていたか分からないなというぐらいに、がれきの状態になっていました。

タンスなんかはツッパリ棒で留めていたんです。ツッパリ棒は金属でできている直径5センチくらいなのですが、避難生活が終わってから戻ったときに、もう1回セッティングしようと思ったら、留めていたタンスが、倒れないけれども、1メートルぐらい移動していました。勝手に歩いてました。

そして、元に戻して、もう1回ツッパリ棒を締めようかなと思ったら、うまく締まらないんです。どうなっていたかという、金属のツッパリ棒は、くの字に曲がっていました。そのぐらいの力がかかったんだと思います。

それから、サバイバル生活を1週間ぐらい覚悟していましたが、前準備として、何をしていたかという、光熱に関しては、分散していました。分散していたというのは、ということかという、電気とガスと石油で、それぞれに集中じゃなくて、オール電化っていう作戦ではなくて、いろいろ分けていました。

例えば、エアコンは電気です。コンロと風呂はガスです。それから、ストーブは石油ということで、どれかこけても大丈夫なように考えていました。

震災のときに、水道は止まりました。電気は幸い通じていましたが、仙台なんかは、しばらく電気が使えなかったそうです。電気が使えないと、石油ファンヒーターは動きませんからね。うちでは石油ストーブを1台、用意していました。

それから、非常用として、カセットコンロと七輪を用意していました。七輪は燃やす木なんかは、そこら中から取って来りゃいいだろうということで用意していました。七輪は、今回は使うことはなかったですけども、カセットコンロについては、避難生活で役立ちました。

実際に避難するまでに4日間あったんですが、震災後、家に戻り、今、自分のところに、どれだけの物があるのかを確認することを始めました。そして、足りないものはなんとか調達しようということです。

まず、やったのが水です。震災後、水道を開けました。出ました。でも、これで安心しちゃいけないんですね。大抵、最初は与圧で出るんです。案の定、しばらくしたら止まりました。半日とかしたら、もう全然出なくなりました。

そういうのを知っていましたから、取りあえず、飲み水用のポリタンクを用意していました。そこに水道が出る間に満杯にさせてもらいました。それから、洗濯とかトイレの水はどうしたかという、お風呂に汲み置きです。普段から、前のお風呂の湯は、次の日に残っているようにしていました。

翌日の3月12日になったらテレビでテロップが出たんです。近くのスーパーで販売を開始するというのが出たので、すぐ買い出しに行きました。たくさんの方が来られていました。

そのスーパーではガスが使えたんです。ガスがなぜ使えたかという、プロパンガスだからです。ガスが使えたから、お弁当なんかも提供してくれました。それから、店にあったリンゴや菓子も提供してくださいまして、取りあえず、その日のお昼のお弁当、果物のリンゴと、それから、非常用のため、この長丁場を考えて腐らないものということで、菓子や切り餅、カップ麺を買いました。

注意してほしいのは、このときに使えるのは現金だけです。どういうことかという、スーパーは開店したけれども、建物の中には入れないんです。店の人が、売り物を次から次へと店の中から運び出して来るんです。そして、値札を一個一個に貼るんです。それを

見て、あとは電卓です。店の女の子が、全部それを電卓でたたいて、合計いくらですと。そしてお金を払っていました。

このときには、レジは使えないんです。さらに、私たちの立場からすると、お金を下ろせないんです。その場で現金がありますかという話です。

3月13日には、もう取りあえず、自分が今やれること、震災直後にやれることはやったな、と。あとは、もう耐え抜くだけだという覚悟を決めました。ただし、水だけはちょっと足りないんですね、毎日使いたいから。幸い、自分が住んでいるところには湧水がありまして、それが飲めるんです。そこに汲み出しに行きました。

こういう状況で、1週間ぐらいは覚悟を決めて引きこもるという形で、やろうと思ったんですけども、原発事故が起きて、ちょっと事情が変わってきました。原発事故の状況を書いていますけれども、3月12日に1号機が爆発しました。それから、3月14日に3号機が爆発、3月15日に4号機が爆発です。

このときに、私たち被災地に入ってくる情報は何かと聞いたら、テレビのニュースだけでした。どういうことかという、電話は通じませんし、携帯も通じません。インターネットも通じませんでした。だから、テレビの放送で流れてくるのが、すべての情報です。

ところが残念ですが、テレビの情報でも何か分からないですね。なんか原発で大変なことが起きているらしい。でも、言っているのは何かと聞くと、大丈夫だよ、と。本当に大丈夫なのかは分からない、信用できないとなってくるんですけども、とにかく、大丈夫だよ、大丈夫だよ、としか言ってくれない。そういう中で、実際に、映像として爆発している映像とかが入ってきているという状況です。

3月14日の日に、とにかくもうだめだ、避難すると決めました。で、次の日の朝、避難を始めるから、その準備をしました。

(2) 正常時の安全と異常時の安全

ここで、皆さんにも、どうするか考えていただきたい問題を出させていただきます。津波のときの対応です。2つ事例を出させていただきました。これは、本当にあった話です。まず、その立場に自分が置かれたとして、自分はどうするかということを、ぜひ考えてください。

まず1つ目です。今、自分は家族4人で、津波が来るというので、山の方に車で逃げています。自分が乗っている車は定員5名です。すでに自分の家族4人乗っています。ところが、前の方におばあさん2人が避難するために、よちよち歩いています。あなたなら、どうしますか。

お年寄りの方が避難していると、やっぱり歩みが遅いですね。このまま逃げきれるか、たぶん難しいんじゃないかなと思います。車は5人乗りなのに、もう4人乗っています。歩いている方は2人です。

この問題は、うちの子どもたちにも出しました。こういうことがあったんだけど、あな

たはどうする、と。高3の息子は、俺だったら、もうそのまま通り過ぎるよ、無理だろう、と。中3の娘は、定員オーバーでも乗せればいいんじゃないの、と。さあ、皆さんだったら、どうするでしょう。

私の考えは、定員オーバーでも、これはもう異常時ですから、正常なルールなんか、通用しません。ですから、定員オーバーだろうが、10人だろうが、100人だろうが、乗れるんだったら、乗せちゃいます。ただし、それ以上、乗せられない状態になったら、もう助けようがないんで、素通りするよということを、子どもたちに話しました。

それが正しいかどうかは、分かりませんが、そういう選択を、異常時にはやらなきゃいけないということです。

実際に、この家族はどうされたかという、お母さんが車を降りて歩いて、というか、走って避難することにしました。それで、お年寄り2人を乗せて、計5人ですね。それで車で逃げました。残念ですけども、車で避難された方は5人助かりましたけれども、お母さんは津波にのまれました。

もう1つ考えてください。これも、実際にあった話です。津波から車で避難している途中に踏切があったんです。で、その踏切が鳴りっぱなしなんです。電車が来るかもしれない、と踏切が鳴っているんです。あなただったら、その踏切で止まりますか、どうしますかという話です。

実は、JRの踏切は、事故があったときには、さらに事故、つまり電車と車とかがぶつからないように、それを防ぐために踏切を鳴りっぱなしにするんです。

だから、結果として分かったのは、来ない電車を待っているわけです。でも、津波が寄せて来るかもしれないんです。さあ、あなたはどうしますか。

実際、このときには、先頭の方は、たまたま知っている人が徒歩で逃げていたんです。それで、踏切を渡るときに、「お前、何、立ち止まっているんだ、こんな状況で電車なんか来るはずないだろう、とっとと渡れ」と声を掛けられたんです。それを聞いて、遮断機が下りているところを突っ切ったんです。あれ、突っ切れるようになっているんですね。そして後続の車も続いたわけです。ただし、残念ですけども、当然、後ろには車がいっぱいいるんですから、全員が助かったわけではないです。

もし、皆さんが、後ろの車だとしますね。渋滞しています。どうも、踏切で止まっているようだと思います。どうしますか。このまま津波が来たら、やられる可能性がありますよ。どうしますか。

そのときには、山に向かう方の車線は渋滞です。ただし、反対側はガラガラなんです。そういう状況だったんです。実際に助かった方、私の仲間の1人ですが、他の車の後ろについたときに、すぐ遮断機がない違う踏切を目指したって言っています。とにかく、そこで待っていたらだめだ。で、道を知っていたんで、そっちへ行ったんだそうです。

そしたら、後ろから、こいつは道を知っているかもしれないって、数台がついてきたそうです。それで数台は無事、助かりました。

異常が起きたときには、どうするのか。平常時のルールとは違うルールが必要ですよ

うことです。それについては、あらかじめ、いろんな経験した方とかの話を聞いたり、自分がそういう立場に立ったらどうするんだというのを、いつも考えておくことが大切だと思います。

なぜかっていうと、その場に立つと、目の前が真っ白になります。何も考えられません。普段、避難訓練をしていたら、勝手に体が動くということは、あるかもしれないですけど、その場で考えながらというのは、残念ながら難しいと思います。起こる前に、あらかじめ、起きたらどうしようかということを想定して、考えておくのが大事だと思います。

(3) 超異常時の安全に向けて

次に超異常時の対応ということでお話しさせていただきます。超異常時というのは何ですか、というと原発事故の話です。

先ほどの震災に関しては、私もある程度用意していたんです。地震が来たらこうしようとか、こういうことが起きたら大変なので、そのために、例えば水をなんとかしようとか、いろいろ考えていたんです。しかし、残念ながら、原発事故が起きて、避難させられるとは考えていませんでした。そういう意味で、超異常時という言葉を使わせてもらいました。

もう1つは、超異常と普通の異常と違うのは、その対象となる人が、とてつもなく多いということです。それから、もしかするとサバイバル生活の期間が、とてつもなく長いということを想定して、超異常と言わせてもらいました。

家族4人で、車で避難すると決めたときに何を注意したかということ、まず、現状を把握しますと、どこへ逃げていいか分からないんです。とにかく、今いるところとかはだめなので逃げろなんです。でも、どこへ行ったらいいか分からない状況です。

それから、逃げるにしても震災の直後ですから、どこの山道が通れて、どこが通れないか分かりません。そういう状況です。ガソリンがもう買えないのは分かっていたから、今、車に積んであるガソリンが切れたら、そこで避難は終わり。それから当然、途中で事故に遭ったら、もう車は動かなくなりますので終わり。こういう状況です。

こういうのを踏まえて、じゃあ自分のところでできる最善策ということはどうしたかということ、まず移動は明るいうちだけにしました。夜は絶対走らない。それから、目的地は分からないけれども、取りあえず実家が東京にあるので東京まで行こう。ただし、東京に行くにも、まっすぐ行くと原発のそばを通りますから、ぐるっと回って行かなければいけない。さらに、道がどうなっているか分からないから、かなりの時間がかかる、ということで、普段は半日もかからないんですけども、1週間ぐらいはかかるという覚悟をしました。

別の言い方をすると、どこかの避難所に入れればいい、下手をすると、そこで野宿だということも覚悟しました。

そういう覚悟の上で、避難時の持ち物として、何を持っていったかです。まず、着替え。これはもう、ほとんど持っていないと同じですね。1回分ぐらいの下着ぐらいだけです。

それから食料。これはもしかすると車の中で、何日間か過ごすという最悪のパターンもありますので、そのことを考えて、水、お米、家にあった野菜、ジャガイモとか、そういう根菜類ですね。そういうのを、積めるだけ積んじやいました。いつ戻れるか分からないので、冷蔵庫の中もかき集めました。冷蔵庫の電気を切って行きますから、中身が腐ってしまいます。それからお菓子類。こういうものも食べられるものは、全部持っていきました。

それから、住むところ、要は寝るための準備ですね。寝袋は家族4人分持っていきました。避難1日目に体育館の避難所に寝かしてもらったんですけども、床の上ですからね、冷たいですよ、3月だから。寝袋は役に立ちました。毛布だけでは、しんどかったです。それからコタツ掛け布団の大きいのを1つ持っていきました。

それから灯油。石油ストーブとかファンヒーターに入っていたのを全部抜き出して、灯油のポリタンクに入れて、持っていきました。どういうことかということ、避難所へ行って、灯油がないからストーブがたけないというのもありえますので、そのときには持っていったのが役立つだろう、ということで、灯油を全部持っていきました。後はカセットコンロも持っていきました。

健康に関して救急箱を用意していましたので、それを持っていきました。何が入っているか分からないですけど、とにかく箱ごと持っていきました。私は持病がありますので、持病の薬があるんです。嵩張るけれども、それを箱に入れて持っていきました。後は保険証を持っていきました。皆さんが経験するときに、持って行ってほしいのは、処方箋です。例えば高血圧だといっても、高血圧の薬はいっぱいあるんですね。量も人によって違うんです。そうすると、高血圧の薬をくださいと、知らない医者に行っても出せないんです。処方箋があると分かるわけです。

私は、たまたま処方箋が、逃げたときに持っていたカバンの中に入っていたんです。それを見せて、医者も処方をしてくださったんです。最近では、地元の病院に行ったら、薬手帳っていうんですか、あれが今回の震災でとても役に立ったので、全員持たせるようにしましたということで、有無を言わずに作られました。その薬手帳を持っていけば、医者に見せれば分かるということになっています。

それから職業です。自分の仕事柄ですけど、結構、パソコン、インターネットを使っています。ですから、パソコンさえあれば、なんとかつながるかなということで、パソコンだけ持っていきました。

ただし、そのパソコンを避難所で使えたかということ、使えません。どういうことかということ、たまたま避難したところは、無線で公開してくれました。だから自分のパソコンで、インターネットで情報を集めることはできました。

だけど、仕事柄使う、例えばインターネットバンクを通して振り込むとか、そういうのは、セキュリティ上、使えないというか、使わなかったです。

子育てということで、何か持っていったかと思ったら、何も持って来ていません。子どもの体だけです。連れて行きました、ということです。

そのほかに持っていったものは、現金です。当面、何か物を買うにしても、クレジット

カードとかは使える当てがないので、もう現金なんです。それから、一応、預金通帳と印鑑を持っていきました。

それから、リュックサック。リュックサックを1人1個ずつ持たせました。そしてその中に、自分の最低限の物を、各々持たせました。車に乗るときもリュックサックを自分の脇に置かせました。いざという時は、1人で逃げるんです。

実際に避難するときに、車を出すとき、子どもに言った言葉があります。避難している最中に、何が起こるか分からないですね。そのために言ったのは、「もしもの場合は、自分で考えて、1人で逃げろ。そのときには、パパもママも置いていいから、逃げて行け。パパもママも、精いっぱい逃げるから。分かったな」と。子どもはうなずいていました。

最後の最後はですね、やはり、本人の力を信じる、又は本人が出会う人様を頼るということになってしまうと思います。

まず、自分でなんとかしろ、考えろと言ったのは、残念ですけど、今回の津波で、私たちの仲間もたくさん犠牲になりました。でも、多くの方、自分の知っている昔の職場の仲間は、おふくろが家にいるんだ、っていうので、助けに行行って亡くなっているんです。自分は取りあえず逃げれば、もう、そのままで済んでいるんですけども、戻った方は、やはりやられているんです。そういうのがあります。

○避難生活——原発事故後の生活

(1) わが家の原発事故避難生活6か月の歩み

避難生活の6か月間、自分たちがどうしたかというのを時間を追ってお話しします。

まず、3月14日の夜に避難の準備を始めました。荷造りをして、車はステップワゴンだったので、荷物を結構詰めるんですけども、そこにどンドン詰め込みました。

初日は福島県の北側の伊達市というのがあったんですけども、そこに避難しました。東京に向かうにしても、まっすぐ行きませんので、ぐるっと北側に迂回して、回って行った感じです。

そして、2日目、まだこのときは高速道路は通れません。それから、一般道の4号線がどうなっているか分からない状況ということで、道が大丈夫だというのを確認が取れたところを使って、少しずつ東京に向かいました。

3月16日に、ちょっとズレますが、会津若松市の友人宅に泊めていただきました。

そして3月17日には群馬県に入って来て、館林市の親せきの家にお邪魔させてもらいました。

3月18日に、やっと実家の東京・墨田区に到着しました。その後、2週間ほど、東京でお世話になりました。妻も東京出身なので、私の実家と妻の実家で1週間ずつ、お世話になりました。

そうこうしているうちに、学校の問題が出てきたんです。4月1日になっていました。上の息子が高校3年の受験生です。下の娘が中学3年の受験生です。4月1日の時点で、どういう状況に追い込まれていたかということ、住むところが決まっていません。行く学校

が決まっています。

なぜ、行く学校が決まっていないかというと、息子が通っている高校は、インターネットのホームページで、「在校生は、次のうちの2つから選択して活動してくれ」という通達が来ました。1つは、南相馬の校舎は閉鎖されますから、サテライト校として、相馬校、福島校を開設します。だから、そこに行くという手続きをしてください。もう1つは、今、避難されているところに、転入を許可していただいて、そこに転校してください。どちらかを選んでくださいということです。こういう通達が来ました。

それで、4月1日の時点で、中学校、高校を決めて、子どもたちを行かせなきゃいけないんです。ところが、高校ですと、例えば、東京だと都立になりますね。管轄は都の教育委員会です。一方、中学は、区の管轄で、区の教育委員会の管轄になります。

別の言い方をすると、こういうことです。中学校は、住むところを決めてもらえれば、学校は決まります。だから先に、住むところを決めてください。一方、高校になると、レベルがいろいろありますね。ですから、自分の子どものレベルに合わせて、行きたいところを選んでくれ、と。そうしたら、転入させてあげますよ、ということです。

でも、考えてください。皆さんが、全然知らないところに来て、自分の子どものレベルに合う学校はどこか分かります？難しいですよ。

また、住むところを決めなきゃいけないんですけれども、現金なんか持ってないですよ。保証人もいないんです。住むところも決められない。それを1週間で、子どものために決めて、かつ、子どもの教材とか制服とか、全部、準備しなきゃいけないんです。

さあ、皆さんだったら、どうしますか。実際、自分たちは、4月1日の時点で、そういう状況でした。

そういう状況の中で、子どもたちのお母さんネットワークというのが、やはり強力でした。新潟県に避難している方から、これだけのことをやってくれる、という情報が入りました。新潟は、中越地震を経験したばかりです。だから、どういうことが現場で必要かというのを、よくご存じでした。

どのタイミングで、どういうことが必要になるかも、経験しているんです。だから、その準備というの、よくできています。そして、われわれ避難者が、何もできない、時間的にも無理だし、経済的にも無理なんですけれども、そういう状況にある中で、どうするか、というのを、うまくやったださるという情報が入って来たので、上越市に4月1日に移動させてもらいました。

実家で寝泊まりしていたんですけれども、4月1日から、また体育館住まいになります。体育館で1週間お世話になり、1週間後には、普通の借り上げみたいなアパートに引っ越させてもらいました。そこは当然、中学校、高校のどこの学校に行くかというのを決めた上で、一番近いところということで、斡旋してくれました。

そして、その後、9月1日から、住んでいるところは同じなんですけれども、制度上、避難所という扱いから、借り上げの住宅ということで、ルールが変わりました。これは、われわれ避難者の生活の自立を目標にしまして、家賃とか払うというところまではいかな

いですが、少しずつ自活してください、というような制度に変わったということです。

約6か月間で、実際延べで引っ越しは何回ですかと聞いたら、11回です。こういう生活をさせてもらいました。

(2) 避難生活「衣・食・住」はどうしたか

避難生活の中で、衣・食・住という日常生活で、どういうことが起きたかをお話しします。

まず、着る物です。先ほどお話ししましたとおり、着る物は下着1枚ぐらしか予備を持っていかなくて逃げましたから、途中で現地調達です。現実的には、福島県内にもファッションディスカウント店がいっぱいありましたので、そこで子どもの服、大人の服まで全部含めて、かなり大量に買い込みました。そのときは福島ナンバーの車で駐車場はいっぱいでした。みんな同じ状態です。

でも、ここで注意してほしいのは、そのときにお金が下ろせたか、もしかしたら、下ろせなかったかだと思います。ですから、震災前に、あくまでもこの時点のこういう品物に対しては、現金を用意していなければ、買えないということです。

避難所に入ってから、着る物はどうなのかと聞いたら、自分が行ったときにはもう3週間くらい経っています。だから、救援物資はどんどん入って来ています。本当に選べないというんだったら、特に困らないと思います。でも、自分のサイズに合うだとか、そういうのは、なかなか見つけられないというのが現状です。ですから、ある程度は、やはり買うということが起きます。うちも、かなりの物は買うことになりました。

洗濯に関しては、避難所である体育館の中に、全自動の洗濯機が2台ありました。でも、実際に避難している人は32世帯くらいありますので、それで2つの洗濯機を、順番を管理しながら、みんなで共同で使うという生活でした。

次に、食事ですが、移動している最中は、やはり自腹を切って、自分のお金で食べるしかないです。このときにも、銀行でお金を下ろすというのは、どうか分からないですけど、やはり現金が必要です。

それから、避難所では、お弁当とか果物とか、日によって、ある、なしもありますけれど、果物だとか、飲み水とかを用意してくださいました。だから、食う物がなくなって困るということはなかったです。

ただし、仕出しのお弁当になりますので、1週間もすると、同じようなものになるんです。それを1か月、2か月続けると、やはり私たち大人でも飽きがきます。そして、子どもなんか、もっと正直ですから、もう要らないというんです。そして、どうしたかという、ご飯にふりかけをかけて、毎日それを食べていました。そういう状態になりました。

で、それじゃあ困るというんで、どうするかというと、もともと生野菜とか少ないですから、そういうのは、コンビニなんかで買って来て、追加して食べるということをやりました。だから、そういうのも含めて、やはり食べ物にもお金がかかった、というのが現実です。

それから住むところです。住むところといっても、快適な住まいなんていうのは、期待していませんから、夜、取りあえず安心して寝れるぐらいだと考えてください。夜、寝るだけで幸せだっていうことです。

それをやるために、体育館のときは、どうなっていたかということですがけれども、初日の、伊達市の体育館だけは、地震が起きてすぐでしたので、準備が整っていませんでした。体育館の床の上に、ダンボールの大きいやつを1枚敷いて、提供された毛布をかぶって寝るという形です。床に直接じゃなくて、ダンボールを敷くだけで、かなり違いますけれども、それでも寒いんです。冷たいです。そのときに、寝袋はとても役立ちました。

その後、上越市に行ったときには、もう、日にちが経っていましたので、体育館の中でも、柔道なんかで使う畳がありますね、あれを一面に敷いたんです。そして、パーティションで、4世帯ずつぐらいに、体育館の中を6つぐらいの敷居を切っていました。1つのパーティションで仕切られた区域の中の、どこかの隅に1家族が入るといような形でした。布団もそのときには、貸していただきました。1人1セットずつ。プライバシーは残念ながら、そういう形ではありません。

それから、体育館ですからお風呂はもともとないんで、銭湯を使うことになります。銭湯といっても、人数、まとまって行きますので、バスを用意してくれるんです。移動するといっても車がないですから、バスを市で用意して下さって、班ごとに分かれて、時間を分けて運んで下さった。

そのときに銭湯の受け入れをするのも、ボランティアですので、日によって変わるんです。温泉のお宿の人が提供してくれる日もあれば、スーパー銭湯みたいなところになるときもあります。毎日ではないです。2日に1回、3日に1回ですけども、それで入らせてもらうという形です。

そのときは銭湯代はタダですけども、実は、自分の場合だと、子どもの学校の手続きとかで、昼間動いています。そうすると、その時間帯に合わないときがあるんです。そのときは、お風呂に入れないので、残念ながら、自腹を切って銭湯代を出して入ることになります。そういうことで、お風呂にもお金がかかりましたということです。

その後、上越教育大学の教員社宅みたいなお世話になりました。そこに入ったときは4月8日ですから、子どもの学校も落ち着いて、行く場所も決まったわけです。

そこに入ったときの条件はどうだったかというと、まず、プライバシーはあります。普通の住宅と同じですから。けども、扱いは避難所です。じゃあ、どこが違うかというと、まず、お風呂はガス風呂が用意されていて、新品の湯船です。3月11日から4月8日までの間に、用意して下さったんですね。内装を直して、ガスが使えるようにして、風呂釜を用意するというのをやって、4月8日に私たちが使い始めたということです。風呂は、自由に使っていていいですよという話でした。

しかし、避難所なので、安全を保証できないとか、何かあったときに誰が責任を持つのか、いろいろありますので、ガスは禁止です。お風呂だけ、例外的に使っていていいというだけです。

だから、煮炊きとか、そういうのはできません。自分で調理するというのはできないという状況です。その代わりとってはなんですけれども、お弁当とか、そういう食料品を届けてくれるという状態でした。

それから、洗濯は、洗濯機とかありませんので、これは共同の部屋というのを1つ用意したんです。8世帯入っているけれど、それとは別に、1つ共同の部屋を、事務所代わりですね。そこでいろいろ打ち合わせをやると同時に、そこに救援物資とか救援の医療とか、衣料品とか、全部そこに入る。それから、市の管理責任者みたいな方も、そこに詰めている、というような部屋にしていました。そこに、洗濯機と冷蔵庫を、取りあえず1台ずつですが、置いたんです。それを、各世帯で順番制にして使わせてもらうという形にしました。

家具も何もなくて、貸してくださるといふか、用意してくださったのは、折りたたみの座卓です。これを2つです。このときの生活は、それが家具、全式です。お風呂は取りあえず用意してくれたから使えます。でも、使えるのは、座卓だけです。テレビもタンスも冷蔵庫も電子レンジも、何もないです。調理もしないでいいんですから、ガスコンロもないです。そういう生活です。

固定電話も、避難所ですから、勝手に工事しちゃいけないという約束になっていますので、引けません。

ただし、この時期になりますと、だんだん自立を支援してもらうという立場が変わってきますので、このときには、取りあえず、生活するのにお金がかかるものは、みんなタダですよという感じです。電気代もガス代も出してくれるんです。部屋代もタダなんです。でも、それだとなかなか自立できませんので、少しずつ自立してくれと。

でも、そうはいつでも知らない土地で、仕事をどうやって探すか分からない。ごたごたしている状態で時間的にも無理だと、そういうところで働く、収入を得るといふのは、難しいですね。そこで、ご用意してくださったのが、先ほど言った管理室、1つありますよね。そこに市の職員の方が詰めているんですけれども、雑用がいっぱいありますので、そのお手伝いスタッフということで、補助員として、被災されている人たちを雇ってくれました。わずかですけれども、収入になりました。

その次に、同じ場所なんですけれども、9月1日から避難所の扱いを止めます、全部借上げ住宅ということにしますとなりました。つまり、われわれはそのときどういうスタンスかという、私が部屋を借りているという形です。ただし、部屋を借りるにも保証人とか、いろいろな問題がありますので、間に市が入って、そういう手続きをしてくれるという話です。ただし、あくまでも自分が何かあったときの責任は負いますという契約になります。

ただし、そのときは、まだ収入はないですから、家賃は全部、補助します。ただし、光熱費ですね、電気代とかガス代とかは、使った分だけ、自分たちで出してくださいという制度になりました。

このときには、自分が借りて、全部の責任を負うという形ですから、お風呂はもちろん

いいんですけど、ガスも使っていいですよ、という話です。だからここで自炊ができるようになりました。ただし、自炊をしてもいいといっても、自炊に必要な冷蔵庫とか電子レンジとかの道具は、どうするのという話ですよ。それは、日本赤十字さんで、一般の方が使う電気セットというのを、用意してくださいました。電子レンジのほかに、テレビ、冷蔵庫、炊飯器、電子ポット、そんなものですね。そういうのを、いただけました。それから布団。これは、南相馬市のほうからですね、家族に1セットずつ布団が提供されました。

こういう生活が、9月から始まったという状況です。

(3) 避難生活「医・職・充」はどうしたか

次に健康と収入源、それから子育てという話をさせていただきます。

まず、医療については持病ですから、止めるわけにいかないの、避難している地域のお医者さんに、通院させてもらいました。ですけど、先ほど言ったように、自分がどういう病状なのかも分からない、そのときに役立つのが、どういう薬をいただいていますかという情報です。

それからお医者さんに行くにしても、お金がないわけです。で、そのときはどうなったかということ、医療費は、避難者に対しては、全額無料という制度になりましたんで、取りあえずは、お金がなくても行けるという状況になりました。

それから、収入ですけれども、私の場合、自営業でしたので、東京電力さんの補償というの、すぐには出ませんでした。失業手当もいただけません。ということで、しばらくは収入ゼロということです。さあ、それがどれくらいかは、後ほど詳しくお話しします。

いずれにしても、東電の補償がいただける間にも生きなきゃいけないんです。生活費がかかるんです。それで、その分は全部、あらかじめ用意した現金でやりくりさせてもらいました。それしか手がなかったんです。

それから、商売をやっていると、やっぱり信用が第一なので、入ってくるお金が滞るよりも怖いのは、自動車とかのローンで引き落とされるものに対して、残高不足が起きてしまったら、ブラックリストに載ることになるとか、また、自分のお付き合いしている業者さんにご迷惑をおかけすることになりますから、それだけはしたくなかったです。だから、引き落とされるものに対しては、残高不足にならないように、入金しなきゃいけないということになりました。

ところが、このときに何が問題になるかということ、どのくらい入金しなきゃいけないのかという情報集めです。つまり、どういうことかということ、残高いくらというのは、例えば、自分の場合は、都市銀行に切り替えてましたんで、コンビニへ行くと見えるんです。または現金で下ろすこともできたんです。

けども、内訳としてどうなったかという記帳ができないです。だから、どこのお客さんには、どれだけお金を払ったか、例えば、自動車ローンは引き落とされて、残高がいくらなのかが分からないんです。そうすると、あといくら入金しておかなければ足りないの

かというのはできないんです。その辺で困りました。

ただ、結局これは何とか乗り越えられました。なぜかというと、あらかじめ、そんなことを考えるのは嫌だから、2か月間分ぐらいは先に積んでおこう、それでたぶん足りるよ、という状況にしておいたんです。実際にこれは効きました。というのは、今言ったように、残高が見えないというのもありますけれども、たとえ入金できるとしても、いろんな雑用がいっぱい入金しに行く暇がなかったんです。

このような事態があったときには、信用を大事にするんだったら、入金の手続きができないという覚悟で、あらかじめ2か月分ぐらいは入れておくのがいいと思います。

次に子育てですけれども、うちは受験生を抱えちゃいました。そして新潟県に移動しましたから、高校の場合は県のレベルでどこか学校を選んでください、それから中学は住むところを決めたら、決めてくださるということで、実際に学校と住むところが決まりました。

その後、教科書や制服を買わなきゃいけないんですが、この費用は全部、支援ということで、無料でやってくださいました。困っちゃうのは、例えば、制服を買いに行きます、運動靴も要りますという場合、どこに買いに行ったらいいのかわからない。それに対しては、駅前の何とかスポーツ屋さんに行ってくれというんです。そこで運動靴とかはサイズ合わせして、運動着とか全部サイズを測って用意してくれる、そこに制服屋さんが来るから、制服もサイズ合わせとかやってくれるということです。

同じように、体育館にいるときに、うちは高校生と中学生ですという話をしたら、市の職員から、高校と中学は管轄が県と市で別ですから、高校は県の教育委員会の方と、もうお話になりましたか、と聞かれたんです。私は「申し訳ないです、同じ体育館にいて、どの方が県の職員で、どの方が市の職員か区別もつかない状況です。だから、県の職員と話したのかどうかも判断つきません」と言いました。そうしたら、その後二度とその質問はしません。高校生と中学生という情報はエントリーされて、違う職員も含めて、全部共有されているんでしょうね。

今回、新潟県の上越市に避難させてもらったんですけれども、やはり中越地震でいろんなことを経験されていて、それがちゃんと蓄積として残っているんだな、と感心しました。同時に、やっぱり危機管理というものが新潟県は進んでいるのかな、と実感したことが何度かあります。

例えば、教員住宅に移動になったときに、被災用のラジオを全世帯に無料で提供されるんですが、それにA4サイズ1枚の、こういう目的で使いますよという紙が添えられていたんです。その紙の一番最初に書かれているのは、何だと思いませんか。地震とかの災害なんかに使いますというのは2番目です。一番上には、違うことが書いてあったんです。

最近、話題になっていることですがけれども、テポドンが飛んで来たときなんかに使います、と書いてありました。そういうときに必要だということで、もう皆さんで共有されているということです。

一方で、そういうことまで市の予算でできるのかと逆に心配になりますね。ごみ捨てな

んかも、感心しました。分別が厳しい厳しい。細かく分けるんです。ところが、その分別のごみを捨てる場所は、いつもきれいなんです。ちゃんと分別した上に、ごみ一つないような状態に、いつもなっていました。つまり、どういうことかということ、自分たちでできることは、ちゃんと自分たちでやるというのが、徹底されていると感心しました。

(4) 生活防衛資金はいくら必要か

ちょっと脱線しましたけれど、自分の生活費がどうなったかというのを、実際の金額ベースでお話しさせていただきます。自分の家の実生活の金額が出てるので、ちょっと恥ずかしいんですけど、これはあくまでも私の家がかかったお金であって、人それぞれだと思いますので、その点をご承知ください。

うちは家族4人です。それで普段の生活費というのは月20万円ぐらいなんです。たぶん、東京に住んでいるより、ずっと安いと思います。この20万円には、自動車のローン3万円も含まれます。住宅ローンは、もう終わっていますのでゼロです。子どもの教育費なんかは入っています。それで20万円でやっていました。

3月11日に震災が起きて、収入源は、残念ですけど、失業手当もない、営業活動もほとんど止まっていますから、売り上げもない。そういう状況で、入金があったのは、5月24日に、皆さんからの義援金ということで40万円入りました。それから、すぐその後、5月30日に、東京電力さんから、補償金の仮払いということで100万円いただきました。

仮補償金とかが下りるから、手続きをしてくださいと言われ、手続きした人から下りるんですけど、自分は早く手続きをしましたから補償金が下りるのは早い方だと思います。5月24日、5月30日まで収入はゼロでした。

つまり、3月11日から2か月ちょっとの間の生活費は、全部自分が貯めていたものから、やりくりするという現実がありました。その後の入金としましては、また3か経った後の8月23日に、家族4人分ということで、東京電力さんから120万円。それから、義援金として、8月24日に88万円いただきました。

最初の3か月間を考えてみましょう。3か月間収入が全然ない状態で、生活費がいくらかかるか、いくら準備しておかなきゃいけないのかということですけど、まず、20万円×3か月で60万円かといったら、そうはいかないですね。減るものもあるし、増えるものもあります。要は、生活の様式が、がらっと変わりましたんで。

まず、減少したものです。食費は食べ物を用意してくれますから、ぐんと下がりました。それから学費。子どもの教育費というのは、皆さんのご支援がありまして、ほとんどが無料でした。

一方、増加するものは何かということ、服とかありますけれども、家にはいっぱいあるんです、夏物も冬物も。でも、取りに来れませんか、みんな買うことになりました。

それから、生活に必要な最低限の雑貨ということで、折りたたみの座卓しかないわけです。そのほかは買わなきゃいけないんで、実際に自分のところで買ったのはカラーボックスです。あれをテレビ台にしたり、勉強機の土台にしたりとかで、10個ぐらい買いました。

それから、電話。残念ですけど、固定電話は引けませんので、携帯電話ということで用意しました。自分の家で使っている有線の電話は、解約したときに、どこその番号におかけください、みたいなアナウンスを流すことができます。実は、それと同じことを今回、NTTさんがやってくれました。

どういうことかと言うと、本来だったら、解約するときに、この番号に、お客さんの都合で変わりましたというアナウンスをするというんだけど、それは条件が解約のときなんです。ただし、解約すると、元に戻って来たときに、同じ番号を取れるという保証はしません、というのが解約の条件です。今回は特例なんで1回、解約しても、元に戻って来たときに、同じ番号をあげますよという仕掛けになっていました。

そこで、自分は何をしたかと言うと、自分のところにたぶん仕事の話や親せきからの電話がいっぱい来ていると思うけど、自分の携帯番号は、誰も知らないんだから、そこに連絡を取れるようにしてほしいと。そういったときに、NTTさんが「じゃあ、いったん解約の手続きをしてください。それで、番号アナウンスで携帯番号をお知らせしましょう。今回は特例で、元に戻ったときに同じ番号で復活できますから」ということで、その手続きをさせてもらいました。

そうしたら、避難所でも、携帯電話のほうに、電話がどんどん入ってきました。保険会社からの電話なんかも助かりましたね。損害補償とか、いろいろな手続きに必要なことをやってくれるっていうんで。

あまり費用が変わらなかったのは、車のガソリン代とか新聞代とかですね。新聞は、月決めで普通、取ってたんですけども、それができないんで、コンビニで毎朝買ってくる。ちょっと割高になりますけれど、多寡が知れています。

そういう増えるもの、減るものを調整すると、どうなったかと言うと、うちの場合は、毎月の生活費が3万円増えちゃいました。これ、どう思います？たぶん、多くの方は、食料費かからないんでしょ、学費かからないんでしょ、そうしたら、あんまり生活費かからないんじゃないの、と思われたかと思います。でも、結局うちのところは、逆に増えていました。

増えた理由は何ですかと言うと、一番はやっぱり着る物です。着る物は日常着る物も含めて新しく買い直しです。それから雑貨ですね。やはり、子どもがいるんで、テレビがない生活はだめなんです。だから、テレビを買いました。普段の生活費は3万円増えて、一時的に最低限の物ということで、テレビと電子レンジとホットプレートを買いました。

ガスで自炊しちゃういけないんですが、それでもやっぱり、ちょっと温かいものでも食べたいですね。ということで、すき焼き鍋風の煮ることもできるような小さいホットプレートを買って、それで自炊もどきのことを電気で作ってました。お弁当にプラスして一品という形で、温かいものを作っていました。

電子レンジは、いったん一時帰宅で戻ったときに持って行ったんです。電子レンジ、やっぱり要るよね、と。そして持って行って、電気入れたらつかなくなっちゃったんです。移動の仕方が悪かったみたいで壊しちゃいました。

そうこうすると、月の生活費 23 万円の 3 か月分、それから、一時的出費として 15 万円ぐらい出ちゃいましたんで、なんだかんだ言いながら、3 か月お金がもらえない間にも 84 万円出て行きました。これが実態です。

(5) 生活防衛資金をどう管理するか

じゃあ、この 84 万円をまず貯めておかなきゃいけない、ということが 1 つあるんですけど、どこに貯めておけばいいのかというと、使いたいとき、買いたいときに、現金でなければ物にならないんです。普段ですと、ATM で下ろせばいいだろうというんですけども、ATM が動かないんです。

自分の預金に対する考え方として、2007 年 9 月にある雑誌で、「家庭を守る、防衛する」という記事の中でこういうことをいわせてもらいました。

最悪のケースとして、収入が途絶えたことを想定して、最低 6 か月間の生活費は、防衛資金として貯えておきましょう。うちの場合だったら、1 か月の生活費は 20 万円でしたから、6 か月で 120 万円です。120 万円は、いざという時の生活費で、使って消えてしまうものだから、最低限用意しておきましょうという提案です。

このときの記事は、資産運用をするには、どうするという話なんですけれど、120 万円までは、取りあえず生活防衛資金で、これは使っちゃだめと。それよりも、余力があるのを運用に考えましょうという提案でした。

この 120 万円をどうしてたかということ、増えなくてもいいんです。使いたいときに使える状態にしておくのが第一の目的です。それで現金で持っていました。現金というのは何ですかということ、うちの金庫です。

今回の震災でもそうですけれども、ATM で下ろせないんです。だから現金で用意しておかなきゃいけない。かといって 120 万円を全部現金で家に置いておくのは心配なので、半分の 60 万円は銀行預金ということで、入れさせてもらっておきました。

この銀行預金ですが、ゆうちょの貯金でもいいんですけども、どこの銀行にするかです。うちの場合は、ローカルなところなんで、地方銀行は、東京とか行ったら、支店なんかありませんから下手すると、下ろせなくなっちゃうんです。今はコンビニなんかと提携していますから、手数料を払うと下ろせるかもしれません。ちなみに、自分のメインバンクだった福島県の銀行さんは、東京には支店が 2 か所しかなかったんです。

それから、預金を引き出して現金にできるんですけども、もう一つ難点は何かかというと、記帳ができません。コンビニの ATM は記帳できませんね。ですから、行き来がどのぐらいあって、どこが下ろされているというのが残念ながら見えないので困りました。通帳の記帳というのは、そういう意味で必要かなと思いました。

最終的には、インターネットバンクをメインで使っていましたので、インターネットをつなげて、全部やりくりしました。つまり入出金や残高照会、記帳なんかも全部それでやりました。

(6) 避難経験を活かす、これからの生活設計

今回の経験から、自分が改めてこれが必要だということを再認識したことは何かというと、やはり今の時代、何が起こるか分からない、計画通りにいかないのが、当たり前だと。そういう中で、先が見えない状況の中で、じゃあ、自分の家庭の生活を、どうやってやりくりしていけばいいの、生活設計はどうやって立てたらいいの、考え方をもっと広げなきゃいけないんじゃないの、ということを再認識させられました。

そのときに、世の中にある、いろんな先人の知恵で使えるものがないかといったときに、会社の経営をされている方は、何が起こるか分からない中で、やりくりしているわけです。で、それを使えるんじゃないかなと思いました。

会社の中、つまり組織の中では役割が3つあります。作業という役割と、管理という役割、経営という役割です。

作業は、決められたことを確実にこなすというのが役割です。だから、マニュアルでこうしましょう、とか書いてあるんです。それを忠実にやることなんです。

それから、管理という仕事があります。これは、今いった作業を、できるだけ効率よく実現するということです。要は、サッカーのチームでもそうですし、会社でもそうですけど、競争しているところがありますので、作業は確実に行われるだけでは生き残れない。相手よりも強くなる、もっと成長するということが必要です。そのためにやるのが、管理という仕事で、これをやる担当の方が管理者、課長さんとか部長さんになります。

その上に経営という役割を担う人がいます。社長さんとか役員さんという方ですね。こういうふうに考えると、経営の役割は何だと思えますか。こういうと、目標を設定することだというご意見がよく出るんです。でも、目標を設定するのは、経営というものの役割を実現するための手段の一つです。

経営の役割は、どうしたらいいか分からないことを、どうにかする。残念ですけど、世の中には、どうなるか分からないことが、たくさんあるんです。今までは、成長の社会でしたから、国がこうしてあげます、会社がこうしてあげます、だから、皆さんついてきてくださいね、というようところで育ってきました。

つまり、どういうことかということ、家庭においては作業と管理というのを、十分にやってください。そのほかの必要な経営という部分については、国が面倒をみます、会社が面倒をみます、と行ってくださってたんだと思います。

今、家庭において、私もそうですけれども、作業と管理をうまくできる教育はいっぱい受けているんです。しかし、残念ですけれども、経営に対する教育というのは、今まで受けてこなかったというのがあります。でも、現実の今の世の中で、われわれが置かれている立場としては、これも家庭でやってくださいということです。

家庭という組織の中で、社長さんは誰ですかということです。野田首相じゃないですよ。やはり、われわれ一人ひとりになると思います。経営に携わるにあたって、いろんなノウハウとかというのは、先人の知恵としてあるんです。

会社の経営をされている方は、いろんなところで学ぶ機会があって、少しずつ習得して

いると思います。でも、多くの方は、残念ながら、それが無い。ただし、知っていてほしいのは、そういうものは世の中にあるということです。

どうしたらいいか、分からないことを、何とかするために使えるノウハウとかは、世の中にいっぱいあるということです。で、それらは、基本的に、著作権とかそういうのはなくて、使いたい人は使ってください、と開放されているんです。

私は、そういうものを、家庭の中に入れるというのを、今試みていますし、多くの方に一緒に考えましょう、ということをお話ししています。

今日も経営の中のノウハウというのを、いくつか使わせてもらいました。例えば、どういうことかという、世の中、予定通りいかないんです。そのときに、最悪のことを考えましょうと言いました。これも1つです。最悪のことを、取りあえず考える。これも経営手法の1つです。

それから、津波から避難するときに、その当事者の立場に立って、1人の車を運転している立場に立って考えてみましょうというように、その想定を考えて、疑似体験をする。そういうのも、1つの手法です。

「生活設計」から「生活経営」というものに、ちょっと広げてみるのも、おもしろいんじゃないのか。新しい気づきがたくさんありますよ、ということでお話しさせてもらっています。

本日は、自分の体験とか、ある面では、独り善がりなところもありますけど、お話しさせてもらいました。皆さんに、何か少しでも、1つでも参考になることや、お役に立てれば、うれしいなと思っています。

長い時間お付き合いいただきまして、ありがとうございました。

(了)